憲政記念館概要

旧憲政記念館

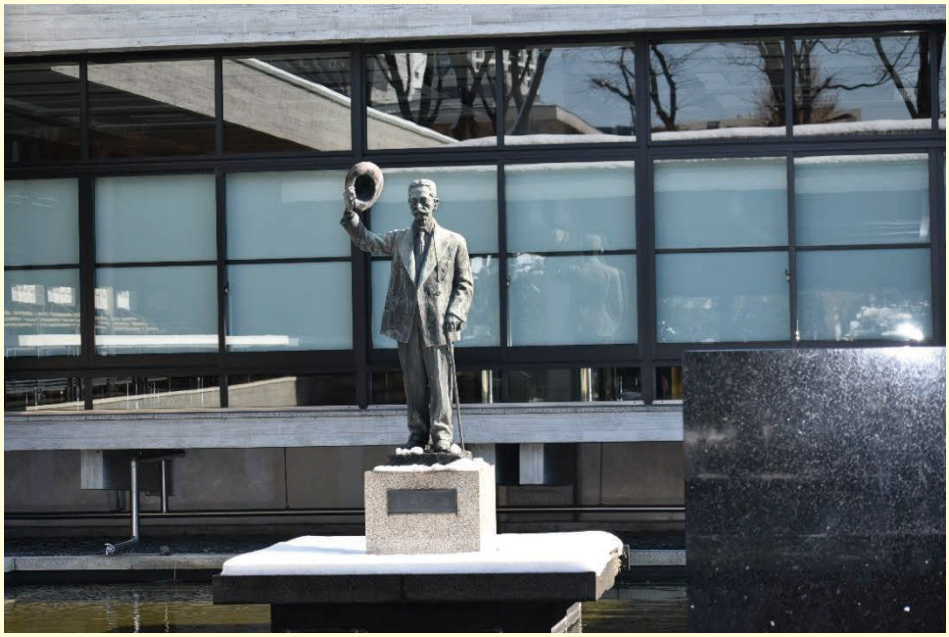
代替施設（2022 年（令和 4）6 月 2 日開館）

憲政の四季

春　－池から東屋を望む（南庭）－

夏　－樹間から国会議事堂を望む（南庭）－

秋　－時計塔と桜の紅葉（北庭）－



冬　－雪が残る中庭池の尾崎行雄像（旧憲政記念館）－

旧憲政記念館開館の様子と展示室風景

テープカット

船田中衆議院議長（右）、河野謙三参議院議長（左）

御観覧される皇太子殿下と美智子妃殿下（現上皇上皇后両陛下）

1972 年（昭和 47）3 月 21 日、憲政記念館の開館式が挙行された。

当日は、衆参両院の議長、副議長、常任・特別委員長、議院運営委員会理事のほか、関係者が多数参集し、記念館２階の大会議室で式典が開かれた。

船田中衆議院議長、河野謙三参議院議長が挨拶したあと、佐藤榮作内閣総理大臣、石田和外最高裁判所長官が祝辞を述べ、引き続き展示場に場所を移して両院議長によるテープカットが行われた。

翌 22 日、皇太子同妃両殿下（現上皇上皇后両陛下）をお迎えして、館内の諸展示を御観覧いただいた。

中央ホール

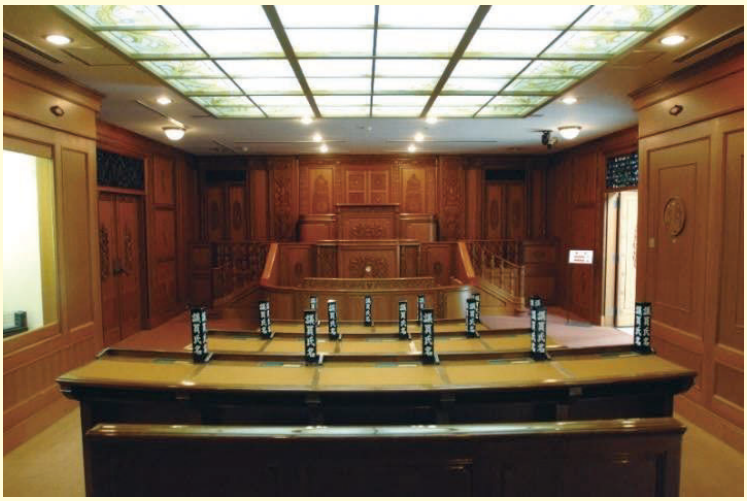
憲政史シアター（第１展示室）

憲政史映像選択コーナー（第１展示室）

憲政の歩みコーナー（第１展示室）

映像検索コーナー（第１展示室）

立体ビジョンコーナー（帝国議会第一次仮議事堂に初登院の場面）（第１展示室）


議場体験コーナー（第２展示室）

国会の速記（衆議院）コーナー（第２展示室）

国会の仕組みコーナー・情報検索コーナー（第２展示室）

尾崎メモリアルホール

特別展（平成 27 年　戦後復興への道のりー吉田茂・鳩山一郎ー）開催の様子

テープカット

（左から笠浩史議院運営委員会理事、川端達夫副議長、大島理森議長、
岸信夫議院運営委員長代理理事、稲津久議院運営委員会理事）

鳩山一郎資料を御覧になる大島議長

吉田茂資料を御覧になる川端副議長

参観の風景

代替施設内覧会の様子と展示室風景

テープカット

（左から山口俊一議院運営委員長、若宮健嗣内閣府特命担当大臣、細田博之議長、海江田万里副議長、盛山正仁議院運営委員会新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員長）

内覧会

2022 年（令和 4）6 月 1 日、憲政記念館代替施設の内覧会が行われた。

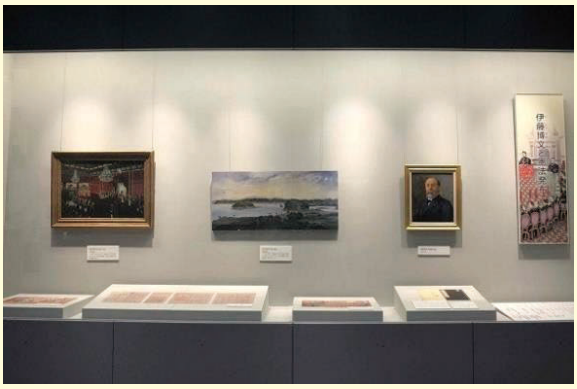
当日は、衆議院の細田博之議長、海江田万里副議長、山口俊一議院運営委員長、盛山正仁議院運営委員会新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員長をはじめ議院運営委員会理事、若宮健嗣内閣府特命担当大臣（公文書管理）等関係者が多数参集し、代替施設 1 階のロビーで式典が開かれた。

細田議長、若宮大臣が挨拶したあと、テープカットが行われ、引き続き館内を内覧いただいた。

来館者用スペース

憲政の歩みコーナー

憲政の歩みコーナー


企画展示「伊藤博文と憲法発布」

憲政史シアター

尾崎メモリアルホール

議場体験コーナー

憲政プラザ

めくりクイズ（憲政プラザ）

中央広間のイメージを再現（憲政プラザ）

憲政記念館の沿革

憲政記念館は、1970 年（昭和 45）にわが国が議会開設 80 年を迎えたのを記念して設立された。

まず、その設立にあたり統合された尾崎記念会館について触れることとする。

尾崎記念会館は、1890 年（明治 23）の第 1 回衆議院議員総選挙以来連続 25 回当選し、議員在職 60 年 7 か月に及んだ尾崎行雄の功績を顕彰し、その思想を普及するため、政界はじめ各界有志によって設立されたものである。

1956 年（昭和 31）12 月 10 日、益谷秀次衆議院議長を会長とし、超党派の議員らを理事とする尾崎行雄記念財団が発足し、翌年 2 月、会館の建設方針が決定された。建設用地には衆議院が所管していた国会前庭北寄りの一角が選ばれ、建設費は経済界のみならず広く国民からの寄付金によりまかなうこととされた。また、会館の完成後直ちに衆議院に寄贈し、国会の施設として利用されるものにしたい旨を衆議院に申し出て承認を得た。1960 年（昭和 35）2 月 25 日、落成式が行われ同会館は衆議院に寄贈されて、講堂及び会議室を中心に政治・経済・文化に関する講演会、国会議員による各種の会合などが行われるようになった。

衆議院事務局では、1970 年（昭和 45）に議会開設 80 年を迎えるにあたり、記念式典等の行事のほか、議会制民主主義について国民の理解を深めるため、憲政功労者を顕彰するにとどまらず、広く憲政資料を収集保管し、常時展覧する施設を構想した。当初は尾崎記念会館の整備拡充も検討されたが、同会館は展示よりむしろ集会に重点を置いた設計であったため、この点を補うには新しい建物を必要とした。そこで同会館に隣接して新館を増築し、完成後は同会館を吸収統合して一館とし、名称を「憲政記念館」とする計画としてまとまった。また、尾崎記念会館設立時に寄せられた国民の熱意と尾崎の議会政治に対する理念を消さないよう、館内の一部に「尾崎メモリアルホール」を設け、その足跡や遺墨・遺品等を展示することとなった。こうした施設の設立は、1969 年（昭和 44）8 月 26 日の両院の議院運営委員会理事会において了承された。

議会開設 80 年記念式典は、1970 年（昭和 45）11 月 29 日、参議院議場において盛大に挙行された。これに先立ち、憲政記念館の起工式が両院議長及び建設大臣の鍬入れによって行われた。新館の基本設計は、尾崎記念会館と同じく海老原一郎氏に委嘱され、実施設計は建設大臣官房官庁営繕部が担当した。1971 年（昭和 46）11 月 15 日、鉄骨・鉄筋コンクリート造り、地上 2 階・地下 1 階、内部に展示室・収蔵庫・機械室等を備えた施設が完工した。

1972 年（昭和 47）3 月 21 日、開館式が行われ、両院の議長、副議長、常任・特別委員長、議院運営委員会理事その他関係者が列席した。まず船田中衆議院議長、河野謙三参議院議長が挨拶に立ち、続いて佐藤榮作内閣総理大臣、石田和外最高裁判所長官がそれぞれ祝辞を述べた。引き続いてテープカットが行われ、全出席者が「開館記念特別展」を観覧し、祝宴も

催された。翌 22 日には、皇太子同妃両殿下（現上皇上皇后両陛下）をお迎えして特別展を御観覧いただくとともに、一般に公開された。

なお、当館の管理運営機構については、1971 年（昭和 46）11 月に決定された「憲政記念館管理運営に関する件」に基づき、衆議院議院運営委員会の委員長及び理事により構成する憲政記念館運営委員会が正式に設置され、管理運営の重要事項については、同委員会の議を経て決定されることとなった。また、事務機構として衆議院事務局庶務部に所属する「憲政記念館」が新設され、1974 年（昭和 49）7 月からは独立の部局となった。

憲政記念館は、1972 年（昭和 47）の開館以降、常設展示や議会政治資料の調査・収集、講堂・会議室の使用管理を業務の柱としているほか、全国各地の関係者から資料等の出陳協力を得て特別展を例年 1 回企画し、2016 年（平成 28）までに 44 回開催している。

1990 年（平成 2）11 月、国会は議会開設 100 年を迎え、記念式典、『議会制度百年史』の編纂や国立国会図書館主催による議会政治展示会など多彩な催しが行われた。これと並行して憲政記念館においても、写真・絵画・図表などを中心とした議会開設 100 年記念特別陳列「議会誕生」展を開催した。以降、110 年、120 年、130 年の節目には同様の記念式典や展示会が催され、当館においても『議会制度百年史』別冊「目で見る議会政治百年史」追録編集などに携わった。

1997 年（平成 9）4 月には、国会が日本国憲法施行 50 周年記念式を憲政記念館講堂で行い、当館でも、「日本国憲法施行 50 周年記念 日本国憲法と議会政治の歩み特別展」を開催した。2007 年（平成 19）4 月に「日本国憲法施行 60 周年記念展示」、2017 年（平成 29）4 月に「日本国憲法施行 70 周年記念展示」を当館で行った。

2017 年（平成 29）4 月、衆議院議院運営委員会において、憲政記念館敷地を含む国会前庭を、新たな国立公文書館と憲政記念館の合築として政府が建設するために使用することを認める決定がなされた。新たな憲政記念館（令和 10 年度末開館予定）の建設期間中、当館は、国会参観バス駐車場北に建設される代替施設において業務を継続することとなった。

2022 年（令和 4）3 月 31 日、代替施設が竣工し、5 月、当館は代替施設に移転した。代替施設は旧建屋より狭いものの、地上 3 階の堅固な建物で、当館の基本的機能を継承し、集会機能を 1 階、展示・保管機能を 2 階にそれぞれ集約し、入口を別個に設けている。2 階は、旧憲政記念館と同様に「憲政の歩みコーナー」及び「尾崎メモリアルホール」を設置し、「議場体験コーナー」を解体・再築するとともに、展示・学習機能に力を入れる新たな憲政記念館の計画を先取りして議会政治に親しんでもらう「憲政プラザ」を設置している。

6 月 1 日、内覧会が行われ、衆議院の議長、副議長、議院運営委員長、議院運営委員会新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員長をはじめ議院運営委員会理事、内閣府特命担当大臣その他関係者が列席した。まず細田博之衆議院議長、続いて若宮健嗣内閣府特命担当大臣（公文書管理）が挨拶に立ち、引き続いてテープカットが行われ、全出席者が会

議室及び展示室を内覧した。翌2日から、展示室が一般に公開され、併せて企画展示「伊藤博文と憲法発布」を開催した。次いで、10月からは開館50年を記念して、企画展示「立憲国家への道のり」を前期、中期、後期の3期に分けて開催する運びとなった。

現在、憲政記念館は、「議会へのトビラ」という理念を掲げる新たな憲政記念館の開館に向けた取組を始めており、国民の皆様と議会をつなぐ場として主権者教育に重点を置いた展示・学習機能の充実について検討を進めるなど、議会制民主主義の発展・普及に貢献すべく歩み続けている。

憲政記念館略年表

1969 年（昭和 44）8 月～2022 年（令和 4）12 月

西暦	和暦	月日	主な出来事
1969 年	昭和 44	8.26	憲政記念館設立了承（衆・参両院の議院運営委員会理事会）
1970	45	11.29	起工式
1971	46	11. 5	憲政記念館管理運営に関する件決定
		15	憲政記念館新館竣工
1972	47	3. 7	憲政記念館管理運営規則決定
		21	開館式
			開館記念特別展（～4.17）
		22	皇太子同妃両殿下（現上皇上皇后両陛下）来館
		4. 8	開館記念講演会
		18	常設展示始まる
		9.11	原敬特別展（～9.30）
		27	原敬特別展記念講演会
1973	48	5.28	英国議会特別展（～6.17）
		6. 4	英国議会特別展記念講演会
1974	49	10. 2	列国議会同盟東京会議記念　日本の国会特別展（～10.22）
1975	50	10.20	国民参政特別展（～11.9）
1977	52	2.24	憲政功労者特別展－憲政の基礎を築いた 3 功労者－（～3.16）
1978	53	2.22	憲政史特別展第 1 回－立憲思想の移入から明治新政府の発足まで－（～3.14）
1979	54	2.21	憲政史特別展第 2 回－廃藩置県から明治憲法の成立まで－（～3.13）
1980	55	2.20	憲政史特別展第 3 回－帝国議会の開設から明治末年まで－（～3.11）
		12. 1	議会開設 90 年記念　議会政治展示会（主催　国立国会図書館、～12.7）
1981	56	3. 4	憲政史特別展第 4 回－憲政擁護運動から普選法の成立まで－（～3.24）
1982	57	2.24	憲政史特別展第 5 回－昭和の開幕から平和条約の締結まで－（～3.16）
		10. 8	『憲政記念館の十年』発行
1983	58	2.23	西園寺公望と原敬特別展（～3.15）

西暦	和暦	月日	主な出来事
1984 年	昭和 59	2.22	田中正造・河野広中・植木枝盛特別展－第 1 回総選挙で当選した異色の政治家たち－（～3.13）
1985	60	3. 6	昭和初期の政党政治と 4 人の宰相特別展－若槻礼次郎・田中義一・浜口雄幸・犬養毅－（～3.26）
		11. 1	国政選挙 95 年・普通選挙 60 年・婦人参政 40 年特別陳列　国民参政（～12.26）
1986	61	2.27	昭和激動期の議会政治特別展（～3.18）
1987	62	2.26	大久保利通・木戸孝允・伊藤博文特別展－立憲政治への道－（～3.17）
1988	63	2.25	明治の政党特別展（～3.15）
1989	平成元	3. 1	大正デモクラシーと政党政治特別展－憲政擁護運動から普選の実施まで－（～3.20）
		11. 4	特別陳列　国政選挙の 100 年－衆議院議員選挙法制定 100 年－（～12.22）
1990	2	3. 8	昭和の政党特別展（～3.27）
		11 月	『議会制度百年史』別冊「目で見る議会政治百年史」編集
		11.20	議会開設 100 年記念特別陳列　議会誕生（～12.20）
1991	3	3. 7	犬養毅と尾崎行雄特別展（～3.26）
1992	4	2.20	戦後政治と 4 人の宰相特別展－吉田茂・片山哲・芦田均・鳩山一郎－（～3.10）
		5.30	『憲政記念館の二十年』発行
1993	5	2.25	近代日本の女性と政治特別展－婦人参政への歩み－（～3.16）
1994	6	1. 4	全面補修工事のため休館（～2.13）
		3. 3	日本議会政治の歩み特別展第 1 回－議会思想の移入から帝国議会の開設まで－（～3.22）
1995	7	2.23	日本議会政治の歩み特別展第 2 回－帝国議会の開設から明治末年まで－（～3.14）
1996	8	7. 1	憲法 50 年記念ホール（大会議室）増設工事及び映像展示設備工事のため休館（～平成 9.3.31）
1997	9	4.24	日本国憲法施行 50 周年記念　日本国憲法と議会政治の歩み特別展（～5.13）
1998	10	4. 4	日本議会政治の歩み特別展第 3 回－憲政擁護運動から普選の実施まで－（～4.23）

西暦	和暦	月日	主な出来事
1999 年	平成 11	5.20	日本議会政治の歩み特別展第 4 回－昭和の開幕から新国会の誕生まで－（～6.8）
2000	12	2.10	特別会議室改修工事のため展示参観休止（～4.30）
		5.25	維新の三傑特別展（～6.18）
		11 月	「目で見る議会政治百年史」追録編集
		12. 1	議会開設 110 年記念　議会政治展示会（主催　国立国会図書館、～12.7）
2001	13	3.22	憲政記念館管理運営規則を改正（4. 1 から土・日・祝日開館）
		5.19	伊藤博文と大日本帝国憲法特別展（～6.10）
2002	14	5.23	吉田茂とその時代－サンフランシスコ講和条約発効 50 年－特別展（～6.14）
		11 月	『開館 30 年憲政記念館所蔵資料目録』発行
2003	15	5.22	ペリー来航 150 年－開国から帝国議会開設まで－特別展（～6.13）
2004	16	5.20	－没後 50 年－尾崎行雄と議会政治特別展（～6.11）
2005	17	5.19	明治の外交と議会政治特別展－日露講和 100 年－（～6.10）
		11.23	衆議院赤坂議員宿舎の地中の秘密（港区教育委員会所蔵資料）展示
2006	18	10.26	女性参政 60 年特別展（～11.17）
2007	19	4.26	日本国憲法施行 60 周年記念展示（～5.20）
		11. 8	重光葵とその時代－昭和の動乱から国連加盟へ－特別展（～11.30）
2008	20	11. 6	怒濤の幕末維新－攘夷・開国から民撰議院設立建白書提出へ－特別展（～11.28）
2009	21	4. 1	憲政史シアター「憲政の歩み」更新
		11. 5	激動の明治国家建設特別展（～11.27）
2010	22	11 月	「目で見る議会政治百年史」追録編集
		11.18	政党政治への道－議会開幕から本格的政党内閣誕生へ－特別展（～12.10）
		12. 1	議会開設 120 年記念　議会政治展示会（主催　国立国会図書館、～12.10）
2011	23	11.10	大正デモクラシー期の政治特別展（～12.2）
2012	24	10 月	『開館 40 年憲政記念館所蔵資料目録』発行

西暦	和暦	月日	主な出来事
2012年	平成24	11. 8	昭和、その動乱の時代－議会政治の危機から再生へ－特別展（～11.30）
2013	25	5. 7	改修工事のため休館（～10.6）
		11. 6	戦後日本の再出発特別展（～11.29）
2014	26	11. 5	明治に活きた英傑たち－議事堂中央広間から歴史を覗く－特別展（～11.28）
2015	27	11. 4	戦後復興への道のり－吉田茂・鳩山一郎－特別展（～11.27）
2016	28	11. 9	普通選挙をめざして－犬養毅・尾崎行雄－特別展（～12.2）
2017	29	4.14	憲政記念館敷地を含む国会前庭を、新たな国立公文書館と憲政記念館の合築として政府が建設するために使用することを認める決定（衆議院議院運営委員会）
		4.27	日本国憲法施行70周年記念展示（～5.30）
2019	令和元	12. 3	新たな国立公文書館及び憲政記念館に係る基本設計及び憲政記念館の代替施設の概要を了承（衆議院議院運営委員会新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員会）
2020	2	3. 1	新型コロナウイルス感染症対策のため展示参観休止（～5.30）
		12.10	議会開設130年記念　議会政治展示会（主催　国立国会図書館、～12.23）
2021	3	4.25	新型コロナウイルス感染症対策のため展示参観休止（～5.30）
		11.11	展示工事のため展示参観休止（～11.24）
2022	4	2月	移転準備のため展示参観休止（2.1～）、講堂・会議室利用休止（2.16～）
		3.31	代替施設竣工
		5月	代替施設に移転
		5.19	憲政記念館代替施設管理運営規則決定
		6. 1	代替施設内覧会
		6. 2	代替施設にて展示参観再開、会議室利用再開
		10. 1	憲政記念館開館50周年記念企画展示　立憲国家への道のり－（前期）近代日本の夜明け－（～12.27）
		12月	『憲政記念館50年のあゆみ』発行

新たな国立公文書館及び憲政記念館建設の経緯

1　検討の経緯

政府では、内閣府特命担当大臣決定により、2014 年（平成 26）5 月から「国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議」が開催されることとなり、同会議において新たな国立公文書館の必要性についても検討が進められた。

2015 年（平成 27）3 月には、新たな国立公文書館に関する基本的な論点と方向性として、立法・行政・司法の三権の重要歴史公文書の保存・利用や、公文書の重要性を象徴する施設の国会周辺への立地などをポイントとする「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する提言」が取りまとめられた。

その後、2016 年（平成 28）3 月に、新たな国立公文書館像の方向性として、これからの時代の国立公文書館に求められる機能等をあらためて整理し、そのあるべき姿が示された「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する基本構想」が、また、2017 年（平成 29）3 月には、国立公文書館に求められる諸機能についての今後の展望や、新たな施設の整備を契機に検討すべき課題として国の立法・行政・司法の三権の機関が集中するエリアへの立地が示された「新たな国立公文書館の施設等に関する調査検討報告書」が取りまとめられた。

一方、立法府では、2015 年（平成 27）4 月、衆議院の議院運営委員会に、新たな国立公文書館に関する小委員会（以下「小委員会」という。）が設置され、小委員会における国会周辺の土地の現状についての説明聴取や参考人意見聴取のほか、小委員による現地視察などが行われ、2017 年（平成 29）4 月 13 日の小委員会、翌 14 日の議院運営委員会で、憲政記念館敷地を含む国会前庭を、新たな国立公文書館と憲政記念館の合築として政府が建設するために使用することを認める決定がなされた。

2　新たな国立公文書館及び憲政記念館の基本計画から実施設計

2018 年（平成 30）4 月 10 日の小委員会（同年 1 月 18 日に「新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員会」に名称変更）では、政府から提出された新たな国立公文書館及び憲政記念館建設の基本計画が了承された。

この基本計画に基づき、憲政記念館の地歴や設立経緯を活かしつつ、新しい時代の憲政記念館として刷新していくことが求められ、これまでの建物の中心をなす尾崎行雄像（朝倉文夫作）及び水盤等で構成された空間は、憲政記念館を象徴する記念的空間として建築に関わる有識者からも評価が高いことから、一部部材の活用やイメージの踏襲等に配慮

した設計を進めていくこととされた。

その後、2019 年（令和元）12 月 3 日の小委員会では、新たな憲政記念館の設計与条件を含む、外観計画やゾーニング・動線計画、各室の面積などの基本設計が了承され、また、2021 年（令和 3）5 月 25 日の小委員会では、基本設計の内容に基づき詳細な建築材料や仕様、設備機器などを具体化した上で令和 10 年度末の開館を目指すとした実施設計が了承された。

なお、当初の計画では、令和 8 年度末の開館が予定されていたが、旧憲政記念館敷地において大規模な埋蔵文化財発掘調査を行うこととなり、竣工・開館が 2 年延期された。

新たな国立公文書館及び憲政記念館は、建築面積は約 42,400 ㎡、地上 3 階、地下 4 階の建物で、憲政記念館を現代的なアルミ合金鋳物やガラス等を基調としたデザインとし、国立公文書館を国会議事堂と同じ色調である桜御影石を使用することで、両館の独自性を表現している。憲政記念館に対しては、尾崎行雄像や大理石の石碑などの再配置によりこれまでの憲政記念館のイメージの再現を図り、イタリア大理石の壁の移築や 1 階ロビーを格子天井とするなど、歴史的・建築的価値を継承する設計とされている。（図 1 参照）

（図 1　国立公文書館及び憲政記念館西側外観）

（出典：新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員会内閣府提出資料）

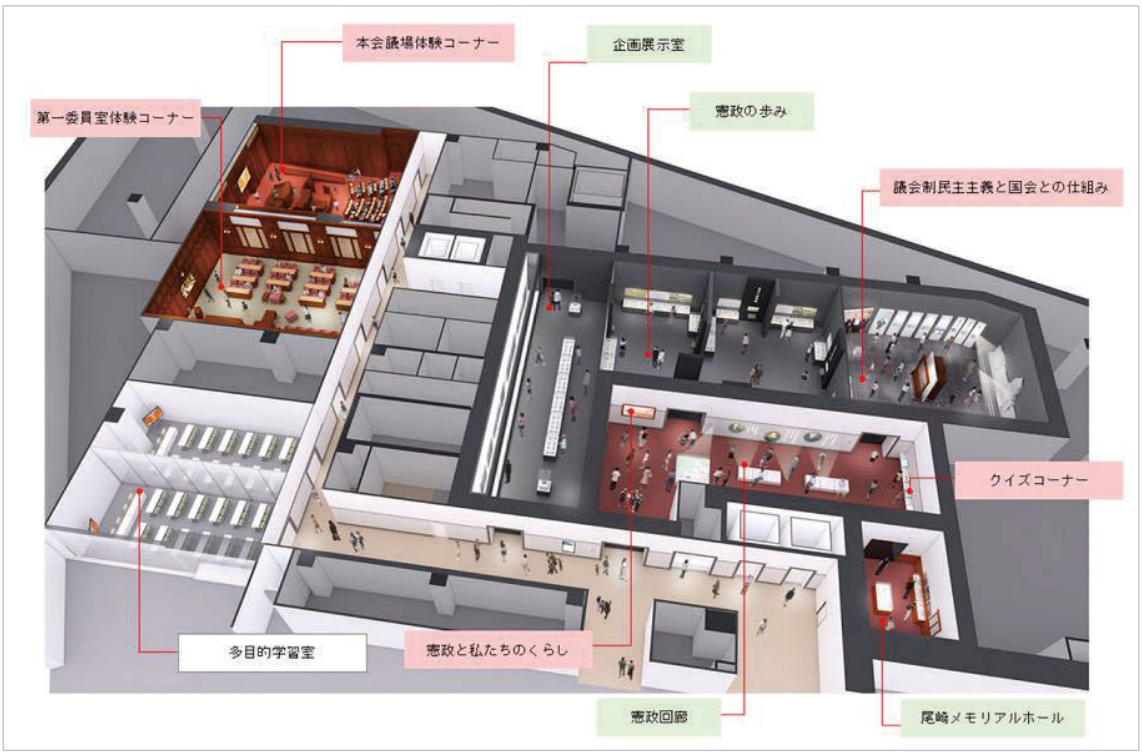
また、エントランスの天井、講堂の壁面、展示室の床等に、ヒノキやナラ材を用いるなど、樹種の持つ特性も踏まえ木材を積極的に活用することで、親しみのある空間を演出することとされた。

3　新たな憲政記念館の展示等基本計画

政府において、新館建設の基本計画や基本・実施設計を行っている間、衆議院事務局では、まず、2019 年（平成 31）3 月に、新たな憲政記念館の施設の理念及び目的、基本的機能、展示コンセプトや展示構成及び展示手法を検討した「衆議院憲政記念館展示等基本計画原案」（以下「基本計画原案」という。）を策定し、次いで 2021 年（令和 3）3 月に、基本計画原案を建物の実施設計図面等に合わせて修正した上で、展示構成や展示手法等にも必要な修正を加えて「衆議院憲政記念館展示等基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定した。

基本計画の策定に当たっては、あらためて「憲政記念館は『議会へのトビラ』」という理念を再構築し、憲政記念館が、主権者である国民の皆様の議会制民主主義についての知見を涵養する場となるために必要な展示等について検討を行った。（図 2～図 4 参照）

（図 2　新たな憲政記念館 展示室イメージ図）



（図 3 新たな憲政記念館
第一委員室体験コーナーイメージ図）

（図 4 新たな憲政記念館
本会議場体験コーナーイメージ図）

4　憲政記念館代替施設への移転

新たな国立公文書館及び憲政記念館は、これまで憲政記念館があった国会前庭北地区に建設されることから、その建設期間中、憲政記念館は、国会参観バス駐車場の北側に建てられた代替施設に移転することとなった。

代替施設は、面積約 3,200 ㎡、地上 3 階で、1 階に会議室、2 階に展示室と収蔵スペース、3 階に事務スペースが配置され、2 階の展示室へは国会参観バス駐車場から歩いて行き来することができる出入口が設置された。（図 5 参照）

移転は、2022 年（令和 4）5 月に収蔵資料、家具・備品等の移動が開始され、同年 6 月 1 日に衆議院議長、副議長、内閣府特命担当大臣（公文書管理）、衆議院議院運営委員長、議院運営委員会新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員長をはじめ議院運営委員会理事等の関係者を招いて内覧会を開催し、翌 2 日に開館した。

（図 5　憲政記念館代替施設南側外観）

代替施設の展示室は、旧憲政記念館と比較して約半分の 500 ㎡程度の面積となったが、これまでと同様に、憲政史の資料を展示する「憲政の歩みコーナー」及び「尾崎メモリアルホール」を設置し、「議場体験コーナー」には、旧憲政記念館にあった議席、壁及びステンドグラスなどを移築した。そして、それら各室を中央部分の「憲政プラザ」を通して回遊できるようにするなど、来館者の動線に配慮した造りとした。

憲政記念館が代替施設に移転を完了した後、旧憲政記念館の取壊しに向けた作業が開始されたが、取壊しと並行して埋蔵文化財発掘調査が行われた。新たな国立公文書館及び憲政記念館の建設は、埋蔵文化財発掘調査の現地調査が終了する予定である令和 5 年度から始まり、令和 10 年度末の竣工・開館を予定している。

常 設 展

常設展示は、年間を通じ、憲政史における重要な文書や憲政功労者に関する資料等を参観者に供するものである。

2022 年（令和 4）6 月に代替施設において展示参観再開となった憲政記念館では、旧憲政記念館と同様に国会の組織や運営の解説、議会政治史に係る文書や映像の提供、また、参加型の議場体験コーナーやクイズ等を設け、幅広い年齢層が憲政史や議会制民主主義への理解を深めるための取組を実施している。

主な内容は次のとおりである。

＜来館者用スペース＞

展示室は、国会参観バス駐車場からブリッジでつながる建物 2 階に位置し、そのエントランスホールとなる来館者用スペースには、受付窓口を置くとともに、略年表パネル、来館記念の写真撮影用パネルやスタンプ、アンケートコーナーなどを集約し、導入映像を効果的に用いることで来館者を展示室へと導く新設のゾーンである。

＜憲政の歩みコーナー＞

明治維新から帝国議会を経て現在の国会に至る憲政の歩みを関係資料や写真等で紹介するほか、テーマを定め一定期間憲政史の関連資料を紹介する企画展示も開催している。（企画展示等一覧参照）

また、憲政史シアターでは、旧憲政記念館で上映していた「憲政の歩み」を引き継ぎ、議会思想が移入された幕末、明治維新、大日本帝国憲法制定と帝国議会開設、太平洋戦争後の日本国憲法制定等を経て今日に至るまでの憲政史に関する制作映像（所要 21 分）を提供している。

憲政の歩みコーナー

主な展示資料

－明治期－

○ 大日本帝国憲法（官報号外）（複製）

○ 田中正造の足尾銅山鉱毒についての質問書、政府答弁書（複写）

－大正期－

○ 桂内閣不信任に関する尾崎行雄の演説（複写）

○ 普通選挙法案（複写）

－昭和期－

○ 一如庵随想録 宇垣一成

○ 終戦の詔書草案

○ 帝国憲法改正案（複製）

－平成期－

○ 選挙グッズ

○ 各党パンフレット

＜尾崎メモリアルホール＞

衆議院議員当選 25 回、議員として 60 年 7 か月在職し、衆議院から憲政功労者として特別表彰を受け、その後名誉議員の称号を贈られた尾崎行雄の足跡を関係年表や映像で紹介するほか、著作や書跡、外国政府からの寄贈品等に加え、代替施設への移設を機に、ウォールケースを新たに設置したことにより可能となった絵画等の大型資料を展示している。

主な展示資料

－絵画等－

○ 桂内閣弾劾

○ 衆議院名誉議員表彰状

－寄贈品－

○ ナタラージャ像（インド政府寄贈）

○ 古代モザイク（複製）（イスラエル政府寄贈）

尾崎メモリアルホール

＜議場体験コーナー＞

衆議院議場を 3/4 のスケールで再現し、実際に議席に座って内閣総理大臣の演説映像を視聴できるほか、演壇に立つことで臨場感を体感できる。

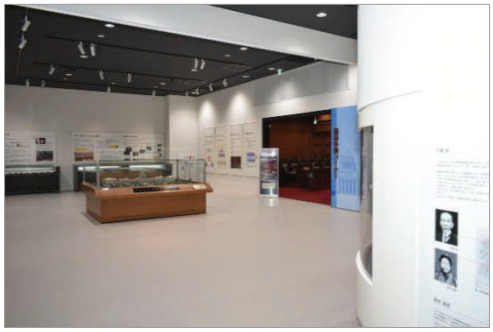
代替施設への移設を機に、速記席（4 席）を新設し、より議場の雰囲気を味わうことができるようになった。また、既存の議席（12 席）に、新たに車椅子席（1 席）を増設した。

議場体験コーナー

＜憲政プラザ＞

憲政プラザは、国会の仕組みコーナー、国会の速記（衆議院）コーナーに加え、国会議事堂等の模型、議事堂で使用されていた実物資料（門標、議員登院表示盤、衆議院の親時計）、議員記章など、旧憲政記念館で展示されていたものを集約したほか、めくりクイズを新設し、国会や選挙制度について学習することができるゾーンとした。

同プラザでは、旧憲政記念館の立体ビジョンコーナーの内容を引き継ぎ、1890 年（明治 23）の第 1 回帝国議会に初登院する議員や議事の様子を模型と映像で学べるほか、わが国で初めて行われた第 1 回衆議院議員総選挙の当選者一覧を展示した。また、代替施設への移設を機に、国会議事堂中央広間のステンドグラスやモザイク模様のイメージを再現し、議会政治確立に功労のあった伊藤博文、大隈重信、板垣退助の銅像の写真と並んで記念写真を撮影することができるスペースを新設した。



憲政プラザ

（参考）旧憲政記念館の常設展示

2022 年（令和 4）1 月 30 日で展示参観休止となった旧憲政記念館の常設展示は、第 1 展示室（2 階）において、憲政の歩みコーナーを中心として、主に議会政治の歴史について紹介し、第 2 展示室（1 階）において、現在の国会の組織や運営等について体験学習ができるように構成されていた。また、1 階には尾崎行雄を紹介した尾崎メモリアルホールがあった。

主な内容は次のとおりである。

中央ホール

中央ホールは吹き抜けの構造で、天窓から降りそそぐ光の効果により、第 1 展示室入口へと参観者を誘導。その開放感ある空間を利用して特別展の内覧会（オープニング・テープカット）を行うほか、特別展専用の大型のタペストリーを掲示。また、二つの展示室をつなぐ場所に位置していることから、衆議院議長肖像画や国会議事堂等の模型、略年表パネル等も展示。

第 1 展示室

＜憲政史シアター「憲政の歩み」＞

1972 年（昭和 47）3 月の開館当初は映写コーナーとして、議会思想が移入された幕末から日本国憲法が制定され、新しい国会が発足するまでの憲政史をまとめたスライドとナレーションで解説していたが、1997 年（平成 9）4 月に開催された日本国憲法施行 50 周年記念日本国憲法と議会政治の歩み特別展を機に、座席数約 40 席を有するシアターが新設されて以降は、幕末、明治維新から今日に至るまでの憲政の歩みを上映。

＜憲政史映像選択コーナー＞

1997 年（平成 9）4 月に開催された日本国憲法施行 50 周年記念日本国憲法と議会政治の歩み特別展を機に設置。憲政に関する映像ソフト（憲政の歩み、帝国議会の歩み、新しい国会の歩み等）や過去の特別展で上映された映像を選択して視聴。

＜憲政の歩みコーナー＞

明治維新から帝国議会開設を経て現在の国会に至るまでの憲政の歩みを、文書類をはじめ関係資料や写真等により紹介。テーマを定め一定期間憲政史の関連資料を紹介する企画展示を開催（企画展示等一覧参照）し、1972 年（昭和 47）3 月の開館当初から開催されていた特別展の会場としても使用。

また、展示用什器は、2002 年（平成 14）3 月に展示の場においても資料の保存環境を護るためにケースをエアタイト仕様に更新（26 台）。その後、2003 年（平成 15）3 月に展示用パネルをバックライトを用いたものに更新（13 台）し、ケース内の展示資料の時代の年表や資料（錦絵、図表、写真等）をより色鮮やかに紹介。

＜映像検索コーナー「憲政史映像博物館」＞

1997 年（平成 9）4 月に開催された日本国憲法施行 50 周年記念日本国憲法と議会政治の歩み特別展を機に設置（座席数 3 席）。憲政に関する映像ソフト（憲政史上の人々、歴代の衆議院議長・歴代の内閣総理大臣の略歴や映像）や当館所蔵の錦絵の映像を選択して視聴。

＜立体ビジョンコーナー＞

1997 年（平成 9）4 月に開催された日本国憲法施行 50 周年記念日本国憲法と議会政治の歩み特別展を機に設置。1890 年（明治 23）の帝国議会第一次仮議事堂を舞台に、初登院する議員の様子や衆議院議場での議長選挙等、書記官長を進行役に繰り広げられる初期議会の模様を、直径 3mの円盤を三場面に分けた模型で場面転換とホログラムを使いながら、ドラマ仕立ての立体映像で上映。

第 2 展示室

＜議場体験コーナー＞

1997 年（平成 9）4 月に開催された日本国憲法施行 50 周年記念日本国憲法と議会政治の歩み特別展を機に設置。衆議院議場を再現したコーナーで、内閣総理大臣の演説の映像を視聴し、実際に演壇や議席に触れて臨場感を体験。

＜国会の速記（衆議院）コーナー＞

2016 年（平成 28）5 月に設置。速記の歴史や会議録ができるまでの過程をパネルや資料等で紹介。

＜国会の仕組みコーナー＞

1997 年（平成 9）4 月に開催された日本国憲法施行 50 周年記念日本国憲法と議会政治の歩み特別展を機に設置（座席数 5 席）。国会の仕組みや世界の議会についてパソコン上で分かりやすく紹介し、国会に関する知識をクイズ方式で解説。

＜情報検索コーナー＞

2000 年（平成 12）11 月に開催された議会開設 110 年記念式典を機に設置（座席数 10 席）。パソコンで、国会関係機関のホームページや当館で開催された特別展関係の主な資料等を検索して閲覧。

尾崎メモリアルホール

1972 年（昭和 47）3 月の開館と同時に設置。衆議院から憲政功労者として特別表彰を受け、その後名誉議員の称号を贈られた尾崎行雄の足跡をしのんで、遺品、著作、書跡、写真等をはじめ、旧尾崎記念会館の開館に当たって諸外国の政府や議会から寄贈された記念品を展示。

企画展示等一覧

2012年（平成24）12月～2022年（令和4）12月

西暦	和暦	月日	タイトル
2012年	平成24	12.15	永年在職表彰元議員肖像画展（第16回）（～平成25.5.6）
2013	25	12.16	永年在職表彰元議員肖像画展（第17回）（～平成26.3.30）
2014	26	4. 1	描かれた議事堂（～6.29）
		7. 1	議会壇上の名演説家たち（～10.5）
		12.13	錦絵で見る幕末明治（～平成27.3.30）
2015	27	4. 1	書のあじわい－永田町春爛漫－（～6.29）
		7. 1	新収蔵資料展（～10.4）
		12.15	館蔵資料で振り返る過去の特別展Ⅰ（～平成28.3.30）
2016	28	4. 1	館蔵資料で振り返る過去の特別展Ⅱ（～6.29）
		7. 1	明治国家建設の立役者（～10.16）
		12.17	竣功80年　議事堂の歩み（～平成29.4.23）
2017	29	4.27	日本国憲法施行70周年記念展示（～5.30）
		6. 1	幕末明治からのメッセージ－激動の時代を彩った人々－シリーズⅠ〔幕末〕ペリー来航～大政奉還（～10.30）
		11. 1	幕末明治からのメッセージ－激動の時代を彩った人々－シリーズⅡ〔明治初期〕戊辰戦争～議会開設（～平成30.3.29）
2018	30	4. 1	幕末明治からのメッセージ－激動の時代を彩った人々－シリーズⅢ〔明治後期〕議会開設後（～8.30）
		9. 1	幕末明治からのメッセージ－激動の時代を彩った人々－シリーズⅣ〔総集編〕（～12.27）
2019	31	1. 9	選挙の歩み（～3.28）
		3.30	憲政記念館のカメラが見た平成の国会（～令和元.6.27）
	令和元	6.29	帝国議会の衆議院正副議長肖像画展Ⅰ（～8.29）
		9.13	尾崎行雄没後65年－咢堂十二景を中心として－（～12.23）
2020	2	1. 8	政党政治の道のり－勃興と挫折－（～2.29）
		6. 1	議会壇上の名演説家たち（～8.27）
		9.11	館蔵資料と事務局文書で見る議会の歩み（～12.20）
2021	3	1. 8	憲政記念館ふりかえり展（～令和4.1.30）
2022	4	6. 2	伊藤博文と憲法発布（～9.29）
		10. 1	憲政記念館開館50周年記念展示 立憲国家への道のり－（前期）近代日本の夜明け－（～12.27）

上記のほか、「書に映る総理の心 色紙展」「戦後70年特集 戦う代議士斎藤隆夫の再出発」「憲政の資料からみる二・二六事件」「フィルムで見る国会の風景」などの展示も開催

特 別 展

当館で開催した第1回から第44回までの特別展の概要は以下のとおりである。

1　開館記念特別展

1972年（昭和47）3月21日（火）～4月17日（月）　28日間

国会の仕組み・運営、選挙制度、世界各国の議会などを、模型及び解説パネル等で紹介するとともに、明治維新から新しい国会の発足に至るわが国憲政の歩みを、関係資料約100点によって紹介した。

特別展を記念して講演会を開催した。

期日・場所　1972年（昭和47）4月8日（土）　憲政記念講堂

演題・講師　「数の政治」　東北大学名誉教授　清宮　四郎氏

「憲法と政党」　上智大学教授　佐藤　功氏

2　原敬特別展

1972年（昭和47）9月11日（月）～9月30日（土）　20日間

衆議院に議席を持つ政党党首として、わが国で最初に本格的な政党内閣を組織し、議会政治の発展に貢献した政治家原敬の業績を、関係資料約220点によって紹介した。

特別展を記念して講演会を開催した。

期日・場所　1972年（昭和47）9月27日（水）　憲政記念講堂

演題・講師　「努力の人・原敬」　盛岡短期大学教授　鈴木彦次郎氏

「原敬と日本政党政治」東京大学助教授　三谷太一郎氏

3　英国議会特別展

1973年（昭和48）5月28日（月）～6月17日（日）　21日間

世界各国の議会発展に多大な影響を与えてきた英国議会の仕組みや運営、選挙制度、今日への発展過程を9世紀にさかのぼり、関係資料約60点によって紹介した。また、16ミリ映画「英国議会開会式」（1959年総選挙後＝マクミラン内閣時代）を上映した。

特別展を記念して講演会を開催した。

期日・場所　1973年（昭和48）6月4日（月）　憲政記念講堂

演題・講師　「英国の政党」　衆議院議員　早川　崇氏

「英国の議会」　東京大学教授　伊藤　正己氏

なお、開会式には英国下院議長セルウィン・ロイド氏及び訪日英国議員団が出席した。

4　列国議会同盟東京会議記念 日本の国会特別展

1974 年（昭和 49）10 月 2 日（水）～10 月 22 日（火）　21 日間

第 61 回列国議会同盟東京会議の開催を記念して、この会議に参加した各国議会の議員に、わが国の議会制度や選挙制度及び憲政の歴史などを紹介するとともに、列国議会同盟についての一般の理解に資するため、関係資料約 70 点を展示した。

5　国民参政特別展

1975 年（昭和 50）10 月 20 日（月）～11 月 9 日（日）　21 日間

1975 年（昭和 50）は、1890 年（明治 23）の第 1 回総選挙から 85 年、1925 年（大正 14）の男子普通選挙法の制定から 50 年、1945 年（昭和 20）の女性参政の実現から 30 年にあたるので、これを記念し、選挙権拡大の歩みを中心に選挙制度の歴史を、関係資料約 120 点によって紹介した。

6　憲政功労者特別展 ー憲政の基礎を築いた 3 功労者ー

1977 年（昭和 52）年 2 月 24 日（木）～3 月 16 日（水）　21 日間

1938 年（昭和 13）に憲法発布 50 年記念事業の一環として、憲政功労者表彰のため、議事堂中央広間に板垣退助・大隈重信・伊藤博文の銅像が建立された。わが国が近代国家に移行する激動期に、憲政の基礎づくりに貢献した 3 人をしのび、その足跡を関係資料約 270 点によって紹介した。

7　憲政史特別展　第 1 回 ー立憲思想の移入から明治新政府の発足までー

1978 年（昭和 53）年 2 月 22 日（水）～3 月 14 日（火）　21 日間

幕末、わが国に欧米の政治思想・議会制度の知識が蘭書・漢籍によって伝えられ、開国後は幕府使節や留学生などの見聞によって理解が深まり、さらに多くの先覚者の努力によって憲政萌芽の基礎が固まった。明治維新を経て、近代国家として出発するまでの憲政発達の前史となる時代を、関係資料約 260 点によって紹介した。

8　憲政史特別展　第 2 回 ー廃藩置県から明治憲法の成立までー

1979 年（昭和 54）2 月 21 日（水）～3 月 13 日（火）　21 日間

1871 年（明治 4）の廃藩置県によって明治新政府の基盤が固まると、岩倉具視ら遣外使節一行は米欧視察に出発した。政府部内では征韓論争が激化し、西郷隆盛・板垣退助ら征韓派参議は下野した。1874 年（明治 7）の板垣らの民撰議院設立建白を契機として国会開設運動・自由民権運動が盛んとなり、1881 年（明治 14）10 月、政府は国会開設の時期を 1890 年（明治 23）と明示し、1889 年（明治 22）には大日本帝国憲法が発布された。立憲政治への道を求めて激動する明治前期の歩みを、関係資料約 250 点によって紹介した。

9　憲政史特別展　第3回 ー帝国議会の開設から明治末年までー

1980年（昭和55）2月20日（水）～3月11日（火）　21日間

開設当初の議会では、民党が経費節減を掲げて政府との間に激しい抗争が展開され、政府の議会乗切りは難航し、度重なる解散が行われた。こうした初期議会の展開、大隈重信・板垣退助による最初の政党内閣の出現、伊藤博文による立憲政友会の創設、明治30年代の社会主義運動の台頭による普選要求の民衆運動など、明治後期の歩みを、関係資料約210点によって紹介した。

10　憲政史特別展　第4回 ー憲政擁護運動から普選法の成立までー

1981年（昭和56）3月4日（水）～3月24日（火）　21日間

陸軍の二個師団増設問題をめぐる上原勇作陸相の単独辞職による後任難で第2次西園寺公望内閣が崩壊した。次の第3次桂太郎内閣の出現を契機に、藩閥政治反対の声の高まりは憲政擁護の大衆運動となって展開された。第一次世界大戦・米騒動などを経て原敬による本格的政党内閣の組織、男子普通選挙法の成立に至る大正時代の憲政の歩みを、関係資料約220点によって紹介したほか、1979年（昭和54）に新たに発見された原敬関係資料のうち8点を特別コーナーで展示した。

11　憲政史特別展　第5回 ー昭和の開幕から平和条約の締結までー

1982年（昭和57）2月24日（水）～3月16日（火）　21日間

1928年（昭和3）に最初の男子普通選挙が行われた。政党政治は定着したかに見えたが、1932年（昭和7）国家改造を画策した海軍将校らによって犬養毅首相が射殺されて政党内閣は終焉した。日中戦争・太平洋戦争と続く中、次第に軍部主導の政治体制となっていった。終戦後、国内諸制度の民主的改革が行われる中、1946年（昭和21）、日本国憲法が公布され、翌年第1回国会が開かれた。1951年（昭和26）の平和条約締結に至る激動の時代を、関係資料約250点によって紹介したほか、新しく公開された原田熊雄関係資料のうち15点を特別コーナーで展示した。

12　西園寺公望と原敬特別展

1983年（昭和58）2月23日（水）～3月15日（火）　21日間

立憲政友会総裁として内閣を組織した西園寺公望は、藩閥に抵抗し、元老となると、藩閥政治打破・政党政治実現に精魂を傾けた原敬を後継首班に推薦した。ともに政友会総裁・内閣総理大臣となった2人の政治家の足跡をたどり、元老政治から政党政治へと推移した政治の態様を明らかにする関係資料約180点を展示した。

13　田中正造・河野広中・植木枝盛特別展 －第1回総選挙で当選した異色の政治家たち－

1984年（昭和59）2月22日（水）～3月13日（火）　21日間

わが国最初の総選挙に当選した 300 人の議員の中から、渡良瀬川沿岸農民の鉱毒被害救済のために身を挺した田中正造、福島事件で知られ普選運動を推進した河野広中、民権派の理論家で婦人参政論を唱え、私擬憲法を起草した植木枝盛の異色政治家 3 人の足跡を、関係資料約190点によって紹介した。

14　昭和初期の政党政治と4人の宰相特別展 －若槻礼次郎・田中義一・浜口雄幸・犬養毅－

1985年（昭和60）3月6日（水）～3月26日（火）　21日間

1924年（大正13）6月に成立した護憲三派内閣以後、1932年（昭和7）5月までの8年間は、憲政の常道に従って、憲政会（のち立憲民政党）と立憲政友会が交互に政権を担当した政党政治の時代であった。昭和初期の7年間の政党政治と、内閣を担当した若槻礼次郎（憲政会）、田中義一（政友会）、浜口雄幸（民政党）、犬養毅（政友会）の4人の宰相の業績を、関係資料約240点によって紹介した。

15　昭和激動期の議会政治特別展

1986年（昭和61）2月27日（木）～3月18日（火）　20日間

1936 年（昭和 11）の二・二六事件に始まる軍部の政治及び社会への威圧・介入から、日中戦争・太平洋戦争へと戦火が拡大し、やがて終戦を迎え、新憲法による新しい国会が発足するまでの、わが国の政治の歩みを、関係資料約230点によって紹介した。

16　大久保利通・木戸孝允・伊藤博文特別展 －立憲政治への道－

1987年（昭和62）2月26日（木）～3月17日（火）　20日間

明治政府の基礎をつくり、近代国家への道を開いた大久保利通・木戸孝允・伊藤博文の3人の業績をふりかえり、わが国の立憲政治の成り立ちを、関係資料約200点によって紹介した。

17　明治の政党特別展

1988年（昭和63）2月25日（木）～3月15日（火）　20日間

1881年（明治14）10月に国会開設の勅諭が発せられ、自由党・立憲改進党が結成された以降の政党活動から、1890年（明治23）の議会開設、藩閥政府と民党の対立抗争、次いで妥協・提携、立憲政友会の創設、社会主義政党の勃興など、政党政治への過程を、関係資料約240点によって紹介した。

18　大正デモクラシーと政党政治特別展 ー憲政擁護運動から普選の実施までー

1989 年（平成元）3 月 1 日（水）～3 月 20 日（月）　20 日間

大正初期の憲政擁護運動から、第一次世界大戦を経ていわゆる大正デモクラシーの洗礼を受け、政党政治の時代となり、大正末年の護憲三派内閣の誕生と普選法の実施に至る政党政治の歴史を、関係資料約 240 点によって紹介した。

19　昭和の政党特別展

1990 年（平成 2）3 月 8 日（木）～3 月 27 日（火）　20 日間

昭和初期の憲政会（立憲民政党）と立憲政友会の二大政党による政党内閣時代から、1940 年（昭和 15）に全政党が解消し、大政翼賛会に結集した戦時体制への変貌、戦後の政党再編成に至る政党政治の退潮と復興の歴史を、関係資料約 260 点によって紹介した。

20　犬養毅と尾崎行雄特別展

1991 年（平成 3）3 月 7 日（木）～3 月 26 日（火）　20 日間

犬養毅・尾崎行雄は第 1 回衆議院議員総選挙にそろって当選、大正初頭の憲政擁護運動ではその先頭に立ち、当時「憲政二柱の神」と呼ばれた。終生衆議院を舞台に活動を続け、議会政治擁護に貢献した 2 人の生涯を、関係資料約 250 点によって紹介した。

21　戦後政治と 4 人の宰相特別展 ー吉田茂・片山哲・芦田均・鳩山一郎ー

1992 年（平成 4）2 月 20 日（木）～3 月 10 日（火）　20 日間

戦後、わが国に政党政治が復活し、新憲法の制定、公選による二院制国会の発足から国際連合加盟によって国際社会への復帰を果たすまで、戦後政治の概観とその時代を担った 4 人の宰相を、約 230 点の関係資料によって紹介した。

22　近代日本の女性と政治特別展 ー婦人参政への歩みー

1993 年（平成 5）2 月 25 日（木）～3 月 16 日（火）　20 日間

明治初期、わが国の近代化が進む中で目覚めていった女性による権利主張の始まりから、進歩と挫折を繰り返しながら、多くの先駆者たちによって政治的な権利獲得運動が続けられ、戦後になって女性参政が実現し、今日に至る女性と政治の歩みを、約 450 点の関係資料によって紹介した。

23　日本議会政治の歩み特別展　第 1 回 ー議会思想の移入から帝国議会の開設までー

1994 年（平成 6）3 月 3 日（木）～ 3 月 22 日（火）　20 日間

漢籍や蘭書などによって欧米の議会が紹介され始めた頃から、明治維新を迎え、民権運動の拡大・激化、国会開設運動、政党の結成、憲法制定などを経て、最初の総選挙が行われ帝国議会が開設されるまでのいわゆる議会前史を、約450点の関係資料によって紹介した。

24　日本議会政治の歩み特別展　第2回 －帝国議会の開設から明治末年まで－

1995年（平成7）2月23日（木）～3月14日（火）　20日間

1890年（明治23）7月に最初の衆議院議員総選挙が行われ、同年11月に第1回帝国議会が開設された当時から明治末年までの議会政治の歩みを、約 520 点の関係資料によって紹介した。

25　日本国憲法施行50周年記念 日本国憲法と議会政治の歩み特別展

1997年（平成9）4月24日（木）～5月13日（火）　20日間

日本国憲法施行50周年を記念して、占領下で生まれた新しい憲法の半世紀にわたる道程をたどるとともに、二大政党対立の時代を経て、戦後政治の枠組みが変容を遂げる今日までの議会政治の流れを、約460点の関係資料によって紹介した。

26　日本議会政治の歩み特別展　第3回 －憲政擁護運動から普選の実施まで－

1998年（平成10）4月4日（土）～4月23日（木）　20日間

大正初頭の憲政擁護運動から、原敬政友会内閣の誕生、護憲三派内閣による普選法の制定を経て、1928年（昭和3）に普通選挙が実施されるまでの議会政治の歩みを、約430点の関係資料によって紹介した。

27　日本議会政治の歩み特別展　第4回 －昭和の開幕から新国会の誕生まで－

1999年（平成11）5月20日（木）～6月8日（火）　20日間

金融恐慌で始まり、民政・政友の二大政党による政党内閣時代から、日中戦争・太平洋戦争を経て、終戦を迎え、日本国憲法による新しい国会が誕生するまでの昭和議会政治の歩みを、約480点の関係資料によって紹介した。

28　維新の三傑特別展

2000年（平成12）5月25日（木）～6月18日（日）　25日間

王政復古宣言から戊辰戦争を経て「五箇条の御誓文」の国是を定め、廃藩置県を断行し近代国家の基礎をつくり、維新の三傑と称された西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允の3人の業績を、約300点の関係資料によって紹介した。

29　伊藤博文と大日本帝国憲法特別展

2001年（平成13）5月19日（土）～6月10日（日）　23日間

初代内閣総理大臣となり、また枢密院議長、貴族院議長などの要職を歴任した伊藤博文の憲政史上の大きな足跡を大日本帝国憲法の誕生とあわせて、約300点の関係資料によって紹介した。

30　吉田茂とその時代 ーサンフランシスコ講和条約発効 50 年ー 特別展

2002 年（平成 14）5 月 23 日（木）～6 月 14 日（金）　23 日間

敗戦後の困難な時代を外相として活躍し、また、7 年余にわたって首相を務め、1951 年（昭和 26）9 月には講和条約及び日米安全保障条約を締結して、戦後日本発展の基礎を築いた吉田茂とその時代を、約 330 点の関係資料によって紹介した。

31　ペリー来航 150 年 ー開国から帝国議会開設までー 特別展

2003 年（平成 15）5 月 22 日（木）～6 月 13 日（金）　23 日間

わが国の開国から明治維新、新政府による近代的な諸制度の構築、自由民権運動の高揚、国会開設要求及び帝国憲法制定を経て 1890 年（明治 23）の帝国議会開設に至る 37 年間の歩みを、関係資料約 300 点（重要文化財 4 点を含む）によって紹介した。

なお、テープカットには米国駐日公使（臨時代理大使）リチャード・A・クリステンソン氏及び米国大使館員が出席した。

32　ー没後 50 年ー 尾崎行雄と議会政治特別展

2004 年（平成 16）5 月 20 日（木）～6 月 11 日（金）　23 日間

第 1 回帝国議会から衆議院に連続当選 25 回、在職 60 年 7 か月の永きに及び、議会政治の発展と世界平和の実現に力を尽くした、議会人尾崎行雄の 95 年の生涯をたどり、明治・大正・昭和にわたるわが国の議会政治の一端を、関係資料約 280 点（重要文化財 3 点を含む）によって紹介した。

33　明治の外交と議会政治特別展 ー日露講和 100 年ー

2005 年（平成 17）5 月 19 日（木）～6 月 10 日（金）　23 日間

日清戦争後の三国干渉から義和団の乱、日英同盟を経て、日露戦争・講和、そしてその後明治末年に至るこの時代の外交と政治を社会の動きを交え、関係資料約 310 点（重要文化財 2 点を含む）によって紹介した。

34　女性参政 60 年特別展

2006 年（平成 18）10 月 26 日（木）～11 月 17 日（金）　23 日間

1946 年（昭和 21）4 月に女性が初めて参政権を行使して 60 年にあたることから、女性の参政権獲得から高度経済成長による社会進出の増加、国際婦人年世界会議を契機とした女子差別撤廃条約調印を経て、男女雇用機会均等法制定、男女共同参画社会基本法制定に至るまでの歩みを、関係資料約 320 点によって紹介した。

35　重光葵とその時代 ー昭和の動乱から国連加盟へー 特別展

2007 年（平成 19）11 月 8 日（木）～11 月 30 日（金）　23 日間

重光葵の没後 50 年にあたることから、重光の足跡とともに、昭和の動乱から国連加盟までの激動の時代を、関係資料約 280 点によって紹介した。

36　怒濤の幕末維新 ー攘夷・開国から民撰議院設立建白書提出へー 特別展

2008 年（平成 20）11 月 6 日（木）～11 月 28 日（金）　23 日間

アヘン戦争から幕藩体制の崩壊、明治新政府の成立を経て民撰議院設立建白書が提出されるまでの怒濤の時代を、関係資料約 270 点（重要文化財 15 点を含む）によって紹介した。

37　激動の明治国家建設特別展

2009 年（平成 21）11 月 5 日（木）～11 月 27 日（金）　23 日間

自由民権運動の萌芽とその展開、頻発する士族反乱の鎮圧、明治十四年の政変と諸政党の勃興、内閣制度の創設と大日本帝国憲法の誕生など、明治国家建設の激動の時代を、関係資料約 270 点（重要文化財 6 点を含む）によって紹介した。

38　政党政治への道 ー議会開幕から本格的政党内閣誕生へー 特別展

2010 年（平成 22）11 月 18 日（木）～12 月 10 日（金）　23 日間

帝国議会が開設され、「民党」と「藩閥政府」との対立、妥協と提携、桂園時代、憲政擁護運動を経て原敬内閣成立に至るまでの歩みを、関係資料約 350 点によって紹介した。

39　大正デモクラシー期の政治特別展

2011 年（平成 23）11 月 10 日（木）～12 月 2 日（金）　23 日間

原敬政友会内閣の成立から、関東大震災、加藤高明護憲三派内閣の誕生、普選法の公布を経て金融恐慌に至るまでの歩みを、関係資料約 220 点によって紹介した。

40　昭和、その動乱の時代 ー議会政治の危機から再生へー 特別展

2012 年（平成 24）11 月 8 日（木）～11 月 30 日（金）　23 日間

普通選挙が実施されて以降、政党内閣の崩壊とともに軍部が台頭し、翼賛体制となった後、太平洋戦争を経て、政党が復活するまでの歩みを、関係資料約 260 点によって紹介した。

41　戦後日本の再出発特別展

2013 年（平成 25）11 月 6 日（水）～11 月 29 日（金）　24 日間

終戦から占領期を経て独立を回復し、国際社会への本格復帰を果たすまでの歩みを、諸相を交えて、関係資料約 220 点によって紹介した。

42　明治に活きた英傑たち　ー議事堂中央広間から歴史を覗くー　特別展

2014 年（平成 26）11 月 5 日（水）～11 月 28 日（金）　24 日間

国会議事堂の中央広間に憲政功労者として銅像が置かれている伊藤博文、板垣退助、大隈重信の 3 名の活躍を軸に、立憲政治の成り立ちと経過を、激動する明治時代の諸相を交差させて、関係資料約 250 点によって紹介した。

43　戦後復興への道のり　ー吉田茂・鳩山一郎ー　特別展

2015 年（平成 27）11 月 4 日（水）～11 月 27 日（金）　24 日間

戦後日本の進路を決定した時期を中心に吉田茂・鳩山一郎らに焦点を当て、戦前から高度経済成長期に至るまでの激動の時代を、諸相とともに関係資料約 240 点によって紹介した。

44　普通選挙をめざして　ー犬養毅・尾崎行雄ー　特別展

2016 年（平成 28）11 月 9 日（水）～12 月 2 日（金）　24 日間

第 1 回衆議院議員総選挙から連続して当選、「憲政の二柱」として憲政擁護運動の主軸となり、また、普通選挙制度の実現に努めた犬養毅・尾崎行雄の活躍を軸に議会政治の歩みを、関係資料約 220 点によって紹介した。

特別展参観者数一覧

回	特別展	期間			参観者数
1	開館記念	1972 年	昭和 47	3.21 ～ 4.17	7,616
2	原敬	1972	47	9.11 ～ 9.30	5,944
3	英国議会	1973	48	5.28 ～ 6.17	7,511
4	日本の国会	1974	49	10. 2 ～ 10.22	7,392
5	国民参政	1975	50	10.20 ～ 11. 9	6,088
6	憲政功労者（板垣・大隈・伊藤）	1977	52	2.24 ～ 3.16	13,118
7	憲政史第 1 回	1978	53	2.22 ～ 3.14	12,881
8	憲政史第 2 回	1979	54	2.21 ～ 3.13	13,337
9	憲政史第 3 回	1980	55	2.20 ～ 3.11	20,905
10	憲政史第 4 回	1981	56	3. 4 ～ 3.24	12,859
11	憲政史第 5 回	1982	57	2.24 ～ 3.16	17,706
12	西園寺公望と原敬	1983	58	2.23 ～ 3.15	14,670
13	田中正造・河野広中・植木枝盛	1984	59	2.22 ～ 3.13	20,317
14	昭和初期の政党政治と 4 人の宰相	1985	60	3. 6 ～ 3.26	10,991
15	昭和激動期の議会政治	1986	61	2.27 ～ 3.18	16,207
16	大久保利通・木戸孝允・伊藤博文	1987	62	2.26 ～ 3.17	19,774
17	明治の政党	1988	63	2.25 ～ 3.15	11,927
18	大正デモクラシーと政党政治	1989	平成元	3. 1 ～ 3.20	9,040
19	昭和の政党	1990	2	3. 8 ～ 3.27	6,677
20	犬養毅と尾崎行雄	1991	3	3. 7 ～ 3.26	6,115
21	戦後政治と 4 人の宰相	1992	4	2.20 ～ 3.10	12,210
22	近代日本の女性と政治	1993	5	2.25 ～ 3.16	9,021
23	日本議会政治の歩み第 1 回	1994	6	3. 3 ～ 3.22	5,335
24	日本議会政治の歩み第 2 回	1995	7	2.23 ～ 3.14	5,767
25	日本国憲法と議会政治の歩み	1997	9	4.24 ～ 5.13	30,139
26	日本議会政治の歩み第 3 回	1998	10	4. 4 ～ 4.23	4,090
27	日本議会政治の歩み第 4 回	1999	11	5.20 ～ 6. 8	3,632
28	維新の三傑	2000	12	5.25 ～ 6.18	8,294
29	伊藤博文と大日本帝国憲法	2001	13	5.19 ～ 6.10	6,807
30	吉田茂とその時代	2002	14	5.23 ～ 6.14	9,154
31	ペリー来航 150 年	2003	15	5.22 ～ 6.13	8,812
32	尾崎行雄と議会政治	2004	16	5.20 ～ 6.11	6,186
33	明治の外交と議会政治	2005	17	5.19 ～ 6.10	8,712
34	女性参政 60 年	2006	18	10.26 ～ 11.17	9,025
35	重光葵とその時代	2007	19	11. 8 ～ 11.30	10,728
36	怒濤の幕末維新	2008	20	11. 6 ～ 11.28	16,481
37	激動の明治国家建設	2009	21	11. 5 ～ 11.27	15,350
38	政党政治への道	2010	22	11.18 ～ 12.10	15,264
39	大正デモクラシー期の政治	2011	23	11.10 ～ 12. 2	12,100
40	昭和、その動乱の時代	2012	24	11. 8 ～ 11.30	10,150
41	戦後日本の再出発	2013	25	11. 6 ～ 11.29	10,414
42	明治に活きた英傑たち	2014	26	11. 5 ～ 11.28	12,725
43	戦後復興への道のり	2015	27	11. 4 ～ 11.27	10,385
44	普通選挙をめざして	2016	28	11. 9 ～ 12. 2	10,032

※参観者数は内覧日の人数を含む。

広報及び教育普及事業の実施

1　憲政だより「時計塔」の発行（季刊）

憲政記念館は、議会制民主主義の発展に寄与するための施設として実績を重ねてきたところ、憲政の歴史や国会のあらまし、さらには当館の活動について、国民の皆様に、より身近に、より深く理解していただくことを目的として、2015 年（平成 27）3 月、季刊誌として憲政だより「時計塔」を発刊した。

命名の由来となった時計塔は、国会前庭北地区に立つ立法・行政・司法の三権分立を表現する三角塔である。この塔は、憲政の功労者として尾崎行雄を顕彰した尾崎記念会館建設時に、その施設の一環として国会前庭の噴水池とともに設計され、1960 年（昭和 35）7 月に完成した。憲政だより発刊にあたり、長きにわたりこの地を見守ってきた時計塔が季刊誌のタイトルにふさわしいとの思いから、憲政だより「時計塔」と命名した。

創刊以来、年 4 回（3・6・9・12 月）に加え臨時号を 2 回発行し、2022 年（令和 4）9 月に 33 号目を発行するに至った。広報のため、最新号を館内に配架し来館者に配布するとともに、全号を憲政記念館ホームページに掲載している。

これまで紹介した主な内容は次のとおりである。

(1) 憲政の十傑

帝国議会の時代に憲政史に多大な功績を残した 10 人を選出し、その略歴や憲政において果たした功績などを紹介した。

掲載順に紹介すると、まず、憲政擁護運動や普通選挙運動を先導し、のちに「憲政の神様」と呼ばれた尾崎行雄、続いて、民撰議院設立建白書を提出するなど自由民権運動において指導的役割を果たした板垣退助、大日本帝国憲法制定に尽力した伊藤博文、尾崎と共に「憲政の二柱」として普通選挙の実現に努めた犬養毅、わが国初の政党内閣の総理大臣となった大隈重信、大正期の政党内閣時代の幕を開いた西園寺公望、1929 年（昭和 4）の世界恐慌後の経済の復興に辣腕をふるった高橋是清、昭和初期の政党政治の確立に大きな役割を果たした浜口雄幸、衆議院に議席を持つ首相として政党内閣を樹立させた原敬、そして最後に、帝国議会初期に政党の運営に手腕を発揮し第 2 代衆議院議長に就任した星亨について概説した。

(2) 憲政史を訪ねて、憲政史回顧

憲政史を語る上で欠くことのできない人物や出来事に係る銅像や写真を「憲政史を訪ねて」として、憲政史上の分水嶺と言い得る出来事を「憲政史回顧」として、それぞれ紹介した。

「憲政史を訪ねて」では、尾崎記念会館建設に合わせて 91 歳の尾崎行雄の様子を表現

し建立された当館所蔵の銅像、議会開設等に功労があり初代貴族院議長を務めた伊藤博文の国会議事堂中央広間及び参議院側の北門付近などにある銅像、明治維新の立役者でありながらも西南戦争を起こし朝敵として敗死した西郷隆盛の上野恩賜公園などにある銅像を紹介するとともに、ノーベル賞受賞者が国会を訪問した際の写真や空襲後の国会周辺の写真を端緒として憲政史を紐解いた。

「憲政史回顧」では、陸軍・海軍・外務大臣を除く全ての閣僚を政友会の党員から選んだわが国初の本格的政党内閣が組織されるに至った経緯を「政党内閣の実現」として、企画展示「選挙の歩み」開催に先立って女性参政権の実現など普通選挙制度の実現に至る軌跡を「「一票」の歩み」として、第25回参議院議員通常選挙に際して第1回選挙当時の状況を「参議院の誕生から緑風会の結成」としてそれぞれ振り返った。

(3) 資料紹介

「憲政の十傑」など誌面で焦点を当てた人物や出来事、新規収蔵品、展示室の解説に情報を収めきれなかった資料を中心に選出し、写真を付して紹介した。

「憲政の十傑」では、板垣退助資料として錦絵「建白御評議之図」「板垣君遭難之図」、伊藤博文資料として枢密院会議で説明するための憲法草案最終原稿である「伊藤博文書込憲法草案」や第1次伊藤内閣の閣僚を描いた錦絵「皇国高官鑑」を踏まえ、当時の状況を概説した。

そのほか、明治時代に衆議院議員が東京湾上の砲台を参観した際に発射した砲弾の薬莢（やっきょう）、企画展示「選挙の歩み」に列品した第1回衆議院議員総選挙で使われた投票箱、「田中正造の足尾銅山鉱毒についての質問書及び政府答弁書」、1923年（大正12）9月1日に発生した関東大震災時の「関東戒厳司令官命令」、大正時代後期から歴代内閣の陸相を務めた宇垣一成の日記である「一如庵随想録」、五・一五事件直後の動きを記録した衆議院の「秘書課日誌」「警務課日誌」などについて解説した。また、終戦後、帝国憲法の改正手続を経て現行の日本国憲法が制定された際、1946年（昭和21）6月20日に衆議院に提出された「帝国憲法改正案」（衆議院議事部所蔵）や、尾崎記念会館落成にあたって国内外から贈られた記念品を紹介した。

(4) 展示室紹介

来館が容易ではない場合でも当館の展示をイメージできるよう、そして限られた時間での参観の手助けとなるよう、展示室の主な見どころを紹介した。

常設展示のリニューアル、例えば速記の歴史や会議録の作成に関する「国会の速記（衆議院）」を2016年（平成28）に初展示した際は、展示の概要を写真で紹介した。国会の速記がテレビで紹介された際には、当館の議場体験コーナーで速記者を交えて撮影が行われたことから、その様子についても誌面で報告した。

また、新たな国立公文書館及び憲政記念館建設事業の一環として、2022年（令和4）6月

に代替施設に移転し展示室が再構築されたことから、来館者用スペース、憲政プラザなどの各コーナーの見どころを多数の写真を付して詳解した。

(5) 館内・庭園散歩

国会前庭に関する情報や憲政記念館における出来事を紹介した。

約 50,000 ㎡からなる国会前庭を彩る様々な自然の中から、多種多様な桜や東京市長であった尾崎行雄が米国に贈った桜の返礼として届いたことに由来するハナミズキの開花状況を報告した。ハナミズキに関しては、時計塔とともに描かれた特殊切手「米国からのハナミズキ寄贈 100 周年」(2015 年（平成 27）4 月、日米両国で共同発行）関連の情報も紹介した。

また、国会前庭北地区が、幕末の大老井伊直弼の近江彦根藩井伊家上屋敷、旧陸軍参謀本部陸地測量部（国土地理院の前身）を経て衆議院に移管され尾崎記念会館が建設されたことや、井伊家上屋敷の表門（外西側）にあった江戸の名水として知られた「櫻の井」などの史跡、全国の土地の標高を決める基準となる「日本水準原点」が 2019 年（令和元）に国の重要文化財（建造物）に指定されたこと、そして国会前庭南地区に建つ東屋で 1997 年（平成 9）の日本国憲法施行 50 周年記念行事として野点が行われたことや、東屋横に設けられた蹲（つくばい）があることなど、この地の来歴や見どころを紹介した。

国会前庭で行われた、近隣の小学生たちによる鳥の巣箱かけ、高校生による落葉清掃の校外奉仕活動、テレビ局などによるドラマ等の撮影についても、実施の様子を報告した。

建物関連では、尾崎記念会館建設当時の様子や、同館が衆議院に寄贈され、議会開設 80 周年を迎えた記念に「憲政記念館」として建設された経緯などとともに、憲政記念館が舞台となった特筆すべき出来事として、天皇皇后両陛下の御臨席の下、衆参両院議長が出席して開催された「みどりの式典」の様子を紹介してきた。2019 年（平成 31）4 月 26 日の「みどりの式典」については、同年 4 月 30 日の退位を前にさきの天皇皇后両陛下の皇居外での最後の御公務であったことにも触れた。

(6) もう一つの議会史～国会職員オーラルヒストリー～

憲政記念館では、衆議院事務局の元職員から、在職中の出来事や経験等について対面で聴取して記録し、これをオーラルヒストリーという歴史資料として収集・保存している。

国会職員は、国会議員の議会活動等を様々な役割で支え、政治の動きが議会史に書き加えられる場面に立ち会うことがある。それらの経験を「もう一つの議会史」としてとらえ、そのままでは埋もれてしまう貴重な記録の概要を誌面で紹介した。

これまでに、議院運営委員会の担当を長く務めてロッキード問題に関する調査特別委

員会も担当した元委員部職員、衆議院速記者養成所の教授や副所長を務めた元記録部職員、国際会議に度々同行して議員外交を支えた元国際部（渉外部）職員を取り上げた。

上記のほか、特別展、特別企画展示、企画展示などの各種展示の見どころや、新国立公文書館及び憲政記念館建設事業の経緯などを紹介した。

2　夏休み企画の実施

児童・生徒向けの教育普及企画として、展示を見ながら国会の仕組みや憲政史を楽しく学べる体験型の企画を 2017 年（平成 29）から小・中学校の夏休み期間に実施している。なお 2020 年（令和 2)、2021 年（令和 3）は新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見合わせた。

これまでの概要は以下のとおりである。

(1) 憲政くんをさがしてクイズに答えよう！！

ミニ企画展示「憲政の出来事と昔のお金の紹介」

2017 年（平成 29）7 月 24 日（月）～8 月 31 日（木）

特別企画展示「幕末明治からのメッセージ－激動の時代を彩った人々－シリーズⅠ〔幕末〕ペリー来航～大政奉還」や常設展示「憲政の歩みコーナー」などに設置したクイズに挑戦してもらい、参加者に修了証を配付するクイズ企画「憲政くんをさがしてクイズに答えよう！！」と、常設展示「憲政の歩みコーナー」に昔の貨幣を展示し憲政の歴史と見比べてもらうミニ企画展示「憲政の出来事と昔のお金の紹介」を実施した。

(2) よみがえれ！幕末明治の時空選挙

ミニ企画「憲政ハンター！」「憲政パズルに挑戦」

2018 年（平成 30）7 月 23 日（月）～8 月 24 日（金）

幕末・明治の偉人の中から政治を託したい人物に投票してもらい、その結果をホームページで発表した投票企画「よみがえれ！幕末明治の時空選挙」、館内に隠された憲政アイテムの裏面に書かれたキーワードを探索してもらうミニ企画「憲政ハンター！」、憲政記念館関係の写真パズルに挑戦してもらうミニ企画「憲政パズルに挑戦」を実施した。

(3) なるほど！国会議事堂はかせ

国会パズルに挑戦！

2019 年（令和元）7 月 22 日（月）～8 月 29 日（木）

館内に設置した国会議事堂に関するクイズに挑戦してもらうクイズ企画「なるほど！国会議事堂はかせ」と、国会議事堂や時計塔のジグソーパズルを完成してもらう幼児向け企画「国会パズルに挑戦！」を実施した。

(4) 展示ＤＥクイズ

2022 年（令和 4）7 月 19 日（火）～8 月 30 日（火）

企画展示「伊藤博文と憲法発布」や常設展示の展示物をヒントにしたクイズに挑戦してもらい、参加者に国会議事堂などをモチーフとしたぬり絵を配付する企画「展示ＤＥクイズ」を実施した。